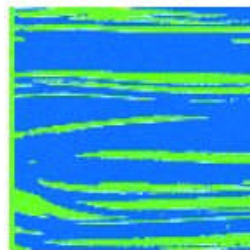


日本行動分析学会ニューズレター

J-ABAニューズ



2014年 春号 No. 74 (2014年5月25日発行)

発行 日本行動分析学会 理事長 園山繁樹
〒540-0021 大阪市中央区大手通2-4-1 リファレンス内
FAX : 06-6910-0090 (日本行動分析学会事務局と明記) URL : <http://www.j-aba.jp/>
E-mail : j-aba.office@j-aba.jp

日本行動分析学会第32回年次大会のご案内	平岡 恭一
本学会の一般社団法人化に向けて	園山 繁樹
国家資格「公認心理師」に関する最近の動向	園山 繁樹
日本行動分析学会機関誌編集委員会からのお知らせ	森山 哲美
自著を語る:『自閉症スペクトラムのある子どもの人間関係形成プログラム』	渡部 国隆・岡村 章司
連載:jABA シアター:映画「アンチクライスト」:心理療法は無力なのか	伊藤 正人
訂正のお知らせ	ニューズレター編集部
編集後記	ニューズレター編集部

日本行動分析学会第32回年次大会のご案内

日本行動分析学会第32回年次大会準備委員会 委員長 平岡恭一

日本行動分析学会第32回年次大会につきまして、ご案内させていただきます。

2月末に大会予約参加申し込みを締め切りました。予約参加申し込み約160件、ポスター発表84件、公募企画シンポジウム1件、自主企画シンポジウム2件のお申し込みがあり、ポスター、シンポジウムともすべて採択されました。昨年の岐阜大会よりも早い時期の開催となりますが、沢山のお申し込みをいただき、ありがとうございました。大変充実した大会になりそうで、準備委員一同感謝しております。

大会プログラムについて内容をご紹介します。

学会企画シンポジウムとして「B. F. スキナーの原著を語る」が行われ、多くのシンポジストの方々に行動分析学の祖スキナーの魅力を語り合ってくださいます。また社会貢献委員会が企画する公開シンポジウム「インクルーシブ教育システムの構築: PBS・RTIモデルの応用と課題」が開かれます。学校心理士ポイントがつきます。大会企画シンポジウムとしては「セルフ・コントロールおよび価値割引研究の基礎と応用」が開かれます。若手研究者の皆さん

によるフレッシュな討論を期待します。

講演は2件ございます。まず地元弘前市出身の文化人でありタレントの伊奈かつぺい氏による講演と、それに引き続き、演者と本学会会員である奥田健次先生との対談を企画しました。また島宗理先生のお世話により、日本在住のPaul Chance先生の”Mission Impossible”と題する小講演も行われます。

皆様からご応募いただいたシンポジウムとしては、公募企画シンポジウム「応用行動分析が授業作り、学級作りに貢献できること」、また自主企画シンポジウムとして「数量的行動分析の最前線」と「障害がある

子どもの指導に対する教員支援の課題」が予定されておりあります。

詳細につきましては、リニューアルされます大会ホームページ、並びに、発送が少し遅くなりますが、論文集をご覧ください。当日参加の皆様には会場でお会いできますことを楽しみにしております。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げております。

本学会の一般社団法人化に向けて

理事長 園山繁樹

わが国において学協会が果たしている社会的責任は近年ますます大きくなっていることに鑑み、日本学術会議では基本的方針として、学協会の社会的責任の増大、並びに学会会計の透明化、公益法人法の改正等の理由から、学協会が法人格を取得し、一般社団法人あるいは公益社団法人に学会組織を移行することが推奨され、関連のシンポジウムも開催されてきました。

こうした状況の中で、現在では、日本心理学会（公益社団法人）、日本教育心理学会（一般社団法人）、日本発達心理学会（一般社団法人）、日本LD学会（一般社団法人）、日本認知・行動療法学会（一般社団法人）、日本特殊教育学会（一般社団法人）等、法人化した学会も増えてきています。このような状況に鑑み、本学会でも昨年度の第1回理事会以降、常任理事会におきまして協議を重ねてきました。その結果、2月23日開催の第4回常任理事会で本学会の一般社団法人化に向けて準備を進める旨の議決をし、去る5月11日開催の本年度第1回理事会では本学会の一般社団法人化について本年度の会務総会に提案することを議決いたしました。

このニュースレターでは一般社団法人化することにもなる主な変更点、並びに今後のタイムスケジュール（案）を紹介させていただきま。学会組織と会計処理については公益法人法（公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律）の定めに従って変更になりますが、学会としての活動や会員の皆様の状況には大きな変化はありません。

①主な変更点

・学会組織としては、会員の選挙によって選ばれた代議員（現在の理事会に相当）による社員総会と呼ばれる組織が最高議決機関となります。そして社員総会で選任された理事会（現在の常任理事会に相当）が学会活動の実際的な遂行に当たることとなります。したがって、現在の会務総会は最高議決機関ではなくなりますが、法人化に当たっては、現在の学会組織や学会活動に大きな変化が起きないように進めていきます。

・学会の会計処理については、法人税の納付をはじめ、公益法人法に定められた処理が必要になりますが、収益事業を法人として適正に行

うことができるというメリットがあります。

・過日、本学会は「体罰に反対する学会声明」を策定し社会に発信しましたが、これも任意団体としてではなく、人格を持つ社団法人の責任で行うことができるようになります。

②タイムスケジュール（案）

(1) 2014 年度年次大会時の会務総会にて以下の事項を提案（2014 年 6 月 28 日）。

・2015 年 4 月 1 日に一般社団法人日本行動分析学会を設立する。（会員、財産等の移転）

・任意団体としての日本行動分析学会は適当な時期に解散する。

・一般社団法人日本行動分析学会設立準備委員会（現常任理事と野呂理事）を設置し、法人化の準備を行う。

・一般社団法人設立時の代表理事・理事・監事・社員（現常任理事）。

(2) ニューズレター、ホームページ等で法人化

についての説明、会員からの意見募集。

(3) 設立準備委員会において定款等の作成。

(4) 一般社団法人日本行動分析学会の法人設立登記（2015 年 4 月 1 日）。

(5) 2015 年度中に代議員選挙を実施。

(6) 第 1 回社員総会（代議員）において理事・監事を選任。

(7) 2016 年度年次大会時の会務総会にて任意団体（現学会）を解散。

(8) 一般社団法人日本行動分析学会としての活動を本格開始。

会員の皆様には以上のことをご理解いただき、本学会の発展のために一層のご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

国家資格「公認心理師」に関する最近の動向

理事長 園山繁樹

ニューズレター68号（2012年12月15日発行）では、本学会も参加する日心連（日本心理学諸学会連合）における心理職の国家資格化の動向、主に養成カリキュラム案についてご報告しました。すでに会員の皆様にも情報が届いているかもしれませんが、この4月以降、国会等での急な動きがあり、5月中にも法案が国会に上程される可能性があるとの情報が日心連理事長より参加学会にメール配信されました。その

際に配信された自民党「心理職の国家資格化を推進する議員連盟」第4回総会で承認された「公認心理師法案要綱骨子（案）」は本学会HPに掲載していますので、会員の皆様にはご確認をいただきたいと思います。この骨子（案）については、日心連はじめ様々な要望書も提出されています。本学会としましても今後の動向を注視していきたいと考えております。

日本行動分析学会機関誌編集委員会からのお知らせ

機関誌編集委員会 委員長 森山哲美

会員の皆様、機関誌編集委員長の森山哲美です。

すでに昨年の News Letter や学会 HP 上でもお知らせしましたが、本学会機関誌『行動分析学研究』の論文種別は、昨年の7月27日から「(原著)論文」、「研究報告」、「実践報告」、「テクニカルノート」、「展望」、「討論」、「解説」になりました。それにともなってそれぞれの査読基準も改訂がなされております。詳しくは、学会 HP や2014年の機関誌28巻第2号に記載された「投稿規定」ならびに「執筆の手びき」をご確認くださいませよう、よろしくお祈いします。

なお昨年7月27日以前に投稿されて査読を受けている論文は旧規定の種別で対応させていただきますが、旧規定での対応は、原則、

今年の3月31日をもって終了しました。種別と査読基準の変更だけでなく、図表のタイトルとキャプションは、原則、英語表記となりましたことも再度お伝えいたします。詳細は、改訂された「投稿規定」ならびに「執筆の手びき」を参照してください。

ご不明な点があれば、編集委員会事務局宛て(下記)にお尋ねいただきますようお願いいたします。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19
国際文献社内

『行動分析学研究』編集事務局 宛
電子メール: jjba-edit@bunken.co.jp
Tel: 03-5389-6492 Fax: 03-3368-2830

<自著を語る>

渡部 匡隆・岡村 章司(編著) PDDプロジェクト(著)

『6つの領域から支援する！

自閉症スペクトラムのある子どもの人間関係形成プログラム』

渡部匡隆(横浜国立大学)
岡村章司(兵庫教育大学)

学苑社より「6つの領域から支援する！自閉症スペクトラムのある子どもの人間関係形成プログラム」を発刊いたしました。

本書は、知的障害のない自閉症スペクトラム

のある子どもたちに対する、社会性・コミュニケーションの障害に関する指導プログラム集です。『かかわり』『遊び』『状況理解』『人間理解』『意思表明』『課題解決』の6つの領域から

支援するように作成しています。

昨今、発達障害関連の書籍が爆発的に増えてきました。しかしながら、学校現場の先生方が彼らの指導を行うに当たって、具体的な手立てに関する手がかりとなるものが乏しく、試行錯誤で実践されている現状があると学校現場に伺わせていただく度に感じています（その度に応用行動分析学に関する書籍を紹介させていただいているのですが・・・）。そのような先生方に活用していただくことを願っています。主に通級指導教室、特別支援学級での自立活動の時間に活用していただくことを想定しています。もちろん通常の学級に在籍する、通級による指導の対象となっていない自閉症スペクトラムのある子どもに対しても、日課や空き時間を利用して活用することも可能です。

第1章には「人間関係形成プログラムの概要」、第2章には「指導とアセスメントの方法」について解説しています。基本的な内容や方法について、応用行動分析学の初学者の方にも一通り理解できる内容となっています。第3章には具体的な1つひとつのプログラムを紹介しています。「先行条件—行動目標—結果条件—プロンプト」の順に指導の流れを示しています。拡大印刷してすぐに現場で使ってもらえるよう、プロ

グラムで実際に用いた教材や記録用紙を掲載しました（巻末の資料にもプログラム中には掲載できなかった教材を全て掲載しました）。第4章ではプログラムを適用した実際の事例について紹介しています。

著者の「PDDプロジェクト」とは、横浜国立大学渡部研究室に教育相談のあった広汎性発達障害のある子どもとその関係者への支援と支援方法の解明を目的として、渡部研究室に所属する神奈川県内から派遣された現職教員、大学院教育学研究科の院生、教育人間科学部学部生と2003年から結成されたプロジェクトチームです。約10年間にわたるPDDプロジェクトチームの臨床活動をもとに数々のプログラムの中から厳選して、33のプログラムについてできる限り読者が実行可能なように必要な要素のみを記述するよう努めました。第2章でも同様に最低限必要な内容に絞って記述しました。試行錯誤を重ねながら行ってきた取り組みでもあり、どうぞお気づきの点につきましてはフィードバックを頂ければ幸いに存じます。

今後、インクルーシブ教育システム構築にあたり、自閉症スペクトラムのある子どもに対する合理的配慮の必要性がますます高まってきます。そのための一助になればと切に願います。

<連載: jABAシアター>

映画「アンチクライスト」：心理療法は無力なのか

伊藤正人（大阪市立大学）

どうか私を泣かせて下さい。この残酷な運命に涙し、失われた自由のために息をつかせて下さい。この悲しみが隣れみにより、この不運の鎖を断ち切ってくださいように。

ヘンデル作曲 歌劇「リナルド」第2幕
アリアより

ラース・フォン・トリアー監督作品「アンチクライスト」（2009年）は、カンヌ国際映画祭の主演女優賞を始め、ヨーロッパの数々の映画賞を受賞した、賞賛と嫌悪が半ばする問題作である（日本公開は2011年）。映画のプロローグと

エピソードに流れるヘンデル作曲歌劇「リナルド」のアリアは、プロローグの映像美と共に、この映画の内容を暗示させ、特別に印象深いものになっている。

映画は、夫婦の激しい性交のさなかに、息子が起き出して窓から転落死する事故のプロローグに続いて、突然息子を失った悲しみから精神のバランスを崩した妻（シャルロット・ゲンズブール）の回復のため、夫（ウイレム・デフォー）が試みる心理療法のエピソードの第1章「悲嘆」、心理療法の一つである現実脱感作療法を適用するために出かけた森の小屋のエピソードの第2章「苦痛（カオスが支配する）」、妻の狂気が露見する、想像を絶する攻撃性的エピソードの第3章「絶望（殺戮）」、狂気の末、破滅的な結末へ向かう第4章「3人の乞食」、そして修羅場を脱した夫が森を出て丘の頂にたどり着くエピソードからなる。

セラピストの夫は、「悲嘆は病気ではない、自然な反応だ」と、薬物による治療を止めさせ、妻を悲しみから回復させようと心理療法を始める。カウンセリングにより、恐怖の正体を突き止め、その恐怖の正体を避けるのではなく、むしろ恐怖を生じさせるものへさらす、いわゆる「現実脱感作療法」を行うのである。恐怖のピラミッド（階層表）の頂点にあるものはわからないが、恐怖の対象が、「自然」であるという妻の言葉に、「エデンという森が好きで、論文執筆のため子どもをつれて訪れていたのに」と、戸惑いながら、エデンの森の小屋へ出かける。

エデンにある小屋の前で現実脱感作療法を始めるが、夫（セラピスト）の理性的分析にいらだち殴りかかる妻は、制止した夫に向かって「これは始まりに過ぎないのよ！」と叫ぶ。これから起こる想像を絶する破滅的な出来事を暗示している。「変な夢ばかり見た」という夫に対し、「夢は、現代心理学では、無意味だ。フロイトは死んだ”でしょ？」と問いかける妻。一見、治療は効果を上げているように思われたが、小屋の屋根裏部屋に残されていた妻の論文執筆の資

料を見て、愕然とする。そこには、女性が虐待される様々な絵が飾られ、残されていた執筆ノートの場合は、判読できないほど乱れていたからである。妻は、不安を性交により解消しようとし、さらに「殴って」とサデスティックな要求を始める。妻に隠して夫が持っていた息子の検死報告書には、幼児虐待の可能性が記されていた。夫の問い詰めに、答えをはぐらかす妻を見て、夫は、恐怖のピラミッドの頂点が、「彼女自身」であると結論づける。これを見た妻は、逆上して夫に襲いかかり、夫が気を失っている間にドリルで足に穴をあけ、重い砥石を取り付けるという想像を絶する狂気を示すのである。

狂気の妻に殺されるという修羅場を何とかしのぎ、妻を絞殺し、火葬にした後、夫は、傷を負った足を引きずりながら、エデンを脱して、丘の頂上にたどり着く。夫が頂上から下を見下ろすと、その頂上へ顔のない大勢の女性たちが上って来るところで映画は終わる。

「アンチクライスト」という題名は、反キリストという意味であるが、キリスト教では、旧約聖書の創世記にあるアダムとイブの楽園（エデン）追放以来、性交（肉欲）は悪であり、女性は「悪（魔）」とされるという。なるほど、「魔女」という言葉はあっても、「魔男」という言葉がないのは、こうしたキリスト教的見方を反映したものである。破滅的な結末の後、夫のいる頂を目指して、大勢の顔のない女性たちが丘を登ってくる場面は、これまでのキリスト教的見方からの女性の救済であり、鎮魂なのかもしれない。

一方、トリアー監督の「タルコフスキーに捧ぐ」（映画のエンディング・タイトルの最初に表示される）という献辞は、この映画が、タルコフスキー監督の代表作「惑星ソラリス」（1972年）と同様な近未来を描くSF映画でもあることを示唆していよう。映画「惑星ソラリス」は、ニューズレターで以前に取り上げた、キューブリック監督の「2001年宇宙の旅」（1997年ニューズレター秋号）と「時計仕掛けのオレンジ」

(1996年ニューズレター冬号)と共に、SF映画の金字塔と称される作品(ジョージ・クルーニー主演によるリメイク版が2003年に作られた)であり、人の「潜在意識」を現実化させる惑星ソラリスの超知性体「理性をもつ海」という卓越したアイデアで知られている(この映画では、未来都市のイメージとして日本の首都高速を走る自動車からの映像が使われた)。

映画「アンチクライスト」は、近未来のアダムとイブの関係を描いたものといえる。その関係は、主従ではなく、対等であり、「悪」も男と

女に共通する本質であるということであろう。そして、それだからこそ、この映画の破滅的結末も必然性があるといえる。女性の凶暴なまでの攻撃性と妻の絞殺という破滅的結末を描いた本作は、先例のない独創的な、賛否両論に分かれる衝撃的作品に違いない。また、本作で描かれた「現実脱感作療法」は、結局、妻の狂気を救うことが出来なかった。どのような療法なら妻の狂気を静めることが出来たのだろうか。その問いは、こちら側へ投げられているといえよう。

<訂正のお知らせ>

先号(2013年冬号、NO. 73)のPennypacker博士のインタビューにおいて、訂正箇所がございます。以下に訂正箇所を記載いたしますとともに、近日、日本行動分析学会ホームページ上にインタビューの原文を掲載いたしますことご報告申し上げます。

P. 3 左段 18 行以降 (誤) 現在は、乳がんの自己検査の科学技術をトレーニングする公開会社ですから、技術と道具の2つの名前を持つ必要はありません。この製品には、検査の方法をよりよく教える学校が複数必要です。 → (正) 今は商社や公開会社ではないので、MammaCareとMamaTechを別々にする必要はありません。

P. 3 右段 19 行 (誤) モンタナ州のエニス → (正) モンタナ州のミズーラ

P. 3 右段 25 行以降 (誤) 生涯教育の児童心理学の初級コース → (正) 児童心理学の初級コース

P. 4 左段 3 行 (誤) Frank Dumas → (正) Frank Du Mas

P. 4 左段 22 行 (誤) スタンフォードに行くことはありませんでした。 → (正) スタンフォードに行きたかったです。

P. 4 右段 4 行 (誤) それセラピーでした。 → (正) セラピーではありませんでした。

P. 5 左段 5 行 (誤) ハーバード大学で → (正) ハーバード大学のメトロポリタンステート病院で

P. 5 左段 37 行 (誤) Ogden は赤ちゃんにマンドを教えていたのでした。 → (正) Ogden は私に新しい方法論を教えてくれたのでした。

P. 6 右段 5、7 行 (誤) Robert Brambowski → (正) Robert Galambos

P. 7 左段 15 行 (誤) そろそろ教育の一つになる → (正) そろそろ教育に必要とされる

P. 7 右段 7 行 (誤) そして、特許込みで買いましようという申し出がありました。 → (正) そして、ご存知の通り特許を取りました。

P. 10 右段 19 行 (誤) 一緒に活動しています。 → (正) 一緒にゴルフをしています。

P. 13 左段 5 最終行 (誤) 1 分間に 20 名の患者を教えます。 → (正) 1 分間に 20 触診します。

P. 13 右段 29 行 (誤) ある人は、女王は頂上に登りますと言いますが、それはあなたが測定するまではわからないのです。 → (正) ある人は測定するまではわからない、囊中之錐と言

うかも知れません。

会長だった頃、

P. 14 右段 31 行 (誤) 行動分析会長だった頃、
→ (正) フロリダ州のピア・レビュー委員会の

以上

編集後記

今号は、近年になく、コンパクトになりましたが、内容は、いつも通り充実しております。本学会の法人化は、私達の学会が大きく発展してきた一つの証拠ともいえましょう。心理職の国家資格化の動きは、やはり注視せざるを得ません。「行動分析学研究」が変わりました。投稿される際は、新しい「投稿規定」と「執筆の手びき」をよくご覧ください。今号も、新しい本が紹介されています。そして、jABA シアター。1

年に一度、春号でのみ、読めます。今回が3回連載の最終回です。行動分析学の歴史インタビューは、前回の訂正のお知らせのみになってしまいましたが、第2弾は次号以降に、掲載したいと思います。どうぞご期待ください。年次大会まであと一月、みなさん、弘前でお会いしましょう。

(HO)

J-ABA ニュース編集部よりお願い

- ニュースレターに掲載する様々な記事を、会員の皆様から募集しています。書評、研究室紹介、施設・組織紹介、用語についての意見、求人情報、イベントや企画の案内、ギャクやジョーク、その他まじめな討論など、行動分析学研究にはもったいなくて載せられない記事を期待します。原稿はテキストファイル形式で電子メールの添付ファイルにて、下記のニュースレター編集部宛にお送りください。掲載の可否については、編集部において決定します。
- ニュースレターに掲載された記事の著作権は、日本行動分析学会に帰属し、日本

行動分析学会ウェブサイトで公開します。

- 記事を投稿される場合は、公開を前提に、個人情報等の取扱に、十分ご注意ください。

〒582-8582 大阪府柏原市旭が丘 4-698-1

大阪教育大学 大河内研究室気付

日本行動分析学会ニュースレター編集部

大河内浩人

E-mail: okouchi@cc.osaka-kyoiku.ac.jp